

顧問先各位

戸田会計事務所
所長 戸田裕陽

融資基準として、銀行はここをチェックする

簡単ですが「銀行から見た、融資のチェックポイント」を述べてみます

1、銀行との取引状況

銀行との取引状況の中で、企業の経営姿勢をチェックします

例えば、経営者がお金にルーズかどうか？返済金の延滞や当座預金の入金待ちがよくあるか？幹部、特に経理の責任者が頻繁に交代しているか？従業員を含めて社内に活気がなくなっているのではないか？良くない風評があるか？等々です。

そして、企業、経営者一族、従業員取引を含めた全体の、貸出、預金、保全の状況と、銀行が享受している取引メリットを見ます。

2、収益状況(損益計算書を年次比較します)

1)赤字が、一過性のものか？構造的なものか？

2期連続赤字となると、構造的な赤字と疑われ、決算書を見る目も厳しくなり、経営者や経理責任者への質問も鋭くなってきます。

売上が減少傾向なら、原因は何か？回復の目処はあるのか？

赤字が続いているのは、売上減少にも拘らず仕入単価は上がっていないか？固定費の負担が大き過ぎないか？借入過多による金利負担が過大ではないか？などをチェックします。

2)減価償却は適正に行われているか？

償却資産があるにも関わらず、減価償却費をほとんどもしくは全く計上していないのは、見せかけの利益を黒字にしようという一種の粉飾と見做されます。

銀行が長期借入金の返済原資として、端的に見るのは「**税引後利益+減価償却費**」です。

3、資産・負債状況(貸借対照表を年次比較します)

1)債務超過になっていないか？

債務超過とは、自己資本がマイナスであることを意味し、資産を借入金や支払猶予のみでまかなっているという危険な状態です。

2)不良資産やデッドストック(滞留在庫)がないか？

売上減少にも拘らず、売掛債権や棚卸資産が大きく増加していれば不良債権やデッドストックの存在を疑います。投資有価証券や長期貸付金の中にも不良資産がないか？を見ます。

3)高金利の借入(町金融など)を導入していないか？

年間支払利息÷借入金合計残高の値が異常に高い場合は導入の可能性を疑います。

(融資相談担当) 太田